

令和6年度 都城市立西小学校評価書

1 学校の教育目標

- 豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成

2 学校経営ビジョン

「教育は人をはじめとする環境なり」を基本理念として、教育者としての自覚と責任をもち、児童の実態及び保護者や地域の願いを十分に把握し、以下のことを推進する。

- ① 確かな児童理解に努め、「チーム西」で校風を醸成する学校経営
- ② 教育活動の一歩前進に努め、「目指す児童像」の具現化を図る学校経営
- ③ 家庭・地域との連携に努め、信頼関係を築く学校経営
- ④ ギガっど！みやこんじょ W（西中校区）の進撃～子どもも先生もICTを使いこなすっど～
- ⑤ 働き方改革を推進し、居心地のよい職場を実現する学校経営

【確かな学力向上対策の推進】	【心の教育の充実と積極的な生徒指導体制の確立】	【生命尊重を基盤とした体力の向上・健康的な生活習慣の確立】	【地域との連携による開かれた学校づくりの推進】
1 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組	1 基本的な生活習慣の確立 2 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開 3 他校（さくら聴覚支援学校）との交流活動の推進 4 西小のよい校風（西風）の醸成	1 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進 2 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成 3 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進	1 情報提供の充実（HPの積極的更新と学校便りの定期的発行） 2 学校運営協議会の機能充実 3 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化
2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善			
3 保護者との連携を密にした家庭学習の充実			
4 生涯読書活動の推進			

3 達成状況評価基準

- 4段階評価 … A (100~80%) B (79~60%) C (59~40%) D (39%未満)

※ 到達度は教職員と児童、保護者、外部評価の到達度の平均

4 自己評価結果

評価項目	評価指標	自己評価項目	到達度 (%)	評価	総合評価	◇成果 ◆課題・改善策
学力の向上	○ 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組	・ 学習事項の習熟や定着の時間を確保している。	83	A	A	◇週1回、朝の時間に学力向上タイムを設け、復習プリントやA I ドリル等に取り組むことで基礎基本の定着を図ることができた。 ◆知識・技能だけでなく、思考力、判断力、表現力を伸ばす手立てが必要である。
	○ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	・ 児童が学び合う指導過程を工夫し、分かる授業に努めている。	85	◇教師が「わさびの授業（脇役に徹する、先を読む、微細な変化に気づく）」を意識した授業改善を行ったことで、児童が主体的に取り組む授業につながった。		
		・ 基本的な学習習慣の確立に努めている。	85	◇フィグジャム等のオンラインで共同作業機能ができるツールを活用することで、他者参照やグループ学習が容易となり、自分の考えを深めることができた。 ◆対話的な学びをより充実させるために、さらに授業改善を行っていく必要がある。		
	○ 保護者との連携を密にした家庭学習の充実	・ 家庭学習の充実に努めている。	83	A		◇発達の段階に応じて、家庭学習の取組内容や方法を工夫した。また、タブレット型端末を活用し、定期的にA I ドリルにも取り組んだ。 ◆「家庭学習のてびき」の活用が十分でないため、見直しを行い有効活用できるようにする。

学力の向上	○ 生涯読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動の推進と語彙力の向上を図るため、学期目標冊数以上の達成を目指している。 	70	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書主任や図書館サポーターによる様々な貸出イベントを実施したことにより、貸出冊数を増やすことができた。 図書館サポーターによるブックトークを実施したこと、児童が様々なジャンルの本に興味をもつよい機会となった。 読書に親しむ児童に個人差がある。クラスによって図書室利用に差もあるため、計画的な活用を図る必要がある。
						<ul style="list-style-type: none"> 日頃の児童観察だけでなく、心のアンケートを実施することにより、トラブルやいじめに早期に対応することができた。 本年度より、西中生徒との合同で朝のあいさつ運動に取り組んだ。あいさつへの意識が高まり、よりよい挨拶ができるようになった。相互によい影響を与えた。 授業では、2分前入室、1分前着席が全校で定着しつつある。 遅刻をしてくる児童が多いため、時間を考えた行動についての意識の向上を図る。
心の教育の充実	○ 基本的な生活習慣の確立（西小のよい校風「西風」の醸成）	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ〇」「気持ちのよいあいさつ・言葉遣い・態度」「けじめ」 	85	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間の指導は、指導方法の工夫が見られ、児童の評価の数値も高くなっている。 教育活動全体を通して、「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育む」「自己決定の場を与える」という生徒指導の三機能を意識して指導していく必要がある。
	○ 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳科」における体験学習の指導や方法の工夫改善を図っている。 	80	A		<ul style="list-style-type: none"> さくら聴覚支援学校やきりしま支援学校との交流では、各学年で充実した活動を実施し、交流を深めることができた。
	○ 他校（さくら聴覚支援学校）との交流活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 同学年や他学年、交流学級の友だちとの交流活動を通して、互いを尊重しながら共生することの大切さを実感できる児童を育成している。 	85	A		<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に沿って、体育の全領域を経験させ、運動量確保につなげた。 昼休みの運動場開放等、日常的な運動につながる取組を行うことができた。 体育主任が中心となり、共通理解や授業力の向上等、各学年との連携を図っていく。
命を守る力の向上	○ 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 体育の時間の運動量の確保に努めている。 	88	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会では、保護者と6年生児童を対象に講演会を行い、スマホ等のメディアとの付き合い方について理解を深めることができた。 風水害時の引き渡し訓練を実施し、非常時の動きを保護者と確認できた。年々スマーズになってきている。 2月現在の治療率は65.9%である。引き続き個別に治療を促していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 日常的に運動意欲が高まるように声かけや環境整備に取り組んでいる。 	80			
	○ 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携した健康的な生活習慣の確立に努めている。 	78	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりや給食だよりを通して、食育についての情報を保護者に周知し、啓発することができた。 肥満傾向にある児童へは個別に対応し、改善が見られた。 児童が望ましい食生活について授業で学習した内容を家庭にも伝えることで、食育について関心を高めたり家庭でも生かしたりできるようにしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携した安全意識の確立に努めている。 	85			
		<ul style="list-style-type: none"> むし歯の治療率70%を目指している。 	83			
	○ 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携した食育指導に取り組んでいる。 	75	B		<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりの立腰はできている。 書くときの姿勢に課題が見られるので、家庭と連携しながら意識できるようにしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携した立腰指導に取り組んでいる。 	73			

地域との連携充実	○ 情報提供の充実 (HPの積極的更新)	・ 地域の方へ積極的に教育活動の公開に努めている。	78	B	B	◇ホームページで児童の学習や学校行事、地域との関わりの様子等を頻繁に紹介した。2月現在、年間16万件を超えるアクセスがあった。
	○ 学校運営協議会の機能充実	・ 地域素材・人材の積極的な活用を図り、教育効果を高めている。	75	B		◇本年度も地域の方々の協力により、各学年で地域学習を実施できた。 ◆今後、地域学習において、児童が地域へ働きかける取組についても検討する必要がある。
	○ 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化	・ 横市地区小中一貫教育推進会議で取り決めた「共通実践事項及び具体的な取組」について、意識して積極的な推進に努めている。	73	B		◇子どもたちが主体となり学び合う授業を構築するための指導方法についての研修を3校合同で実施した。 ◇11月に明和小で研究授業を実施し、授業改善についての合同研修を行うことができた。 ◆共通実践事項について再確認し、取組について検討する必要がある。